

## 編集後記

今回も多くの方に原稿を書いていただきました。お願いする時は多少、不安がありましたが、皆さん快く引き受けてくれました。今は無事に編集作業が終わりほっとしています。寄稿して下さった皆さまに深く感謝します。

大雪山国立公園には登山口が数多くあり、最初は携帯トイレが本当に普及できるのか不安もありました。現在は行政や山岳団体、山岳事業者等の協力で、登山者が安心して携帯トイレを使う環境も整ってきました。美瑛富士避難小屋やトムラウシ南沼野営地は見違えるほど綺麗になり、また踏みつけられた高山植物の植生も目に見えて回復したとの報告もあります。本当に嬉しいことです。

今後の課題は約40年使用してきた避難小屋トイレの再整備です。浸透式の汲み取りトイレで山岳環境を汚染したきたトイレです。

黒岳石室のバイオトイレはオーバーユースで失敗し、し尿が混ざったオガクズを人力で汲み取りヘリで搬出してます。上川総合振興局はじめ石室管理人や関係者の大変なご苦労が続いています。今回も黒岳トイレについて寄稿していただきました。

この失敗を二度と繰り返さないように「大雪山国立公園トイレ検討作業部会」で議論し、拙速でなく慎重な検討が必要と思っています。

まだ積雪は多いですが、何となく春を感じるようになりました。家の前で雪掻きをしていると中学生がぺちゃくちゃ喋りながら登校して行きます。元気な子供たちを見ると明日への希望を感じます。

(2023年2月 仲俣善雄)

第1回～24回までの山のトイレフォーラム資料集は全て当会のホームページに掲載されています。

### 第24回 山のトイレを考えるフォーラム 資料集

発行：山のトイレを考える会

発行日：令和5年3月12日

(事務局)

〒004-0061

札幌市厚別区厚別西1条2丁目3-18

電子メール [hokkaido@yamatoilet.jp](mailto:hokkaido@yamatoilet.jp)

電話：事務局長・仲俣善雄 (090-4873-3525)

ホームページアドレス <http://www.yamatoilet.jp>

本資料集は会員の年会費で作成しました